

道の駅に椅子と机寄贈される デザインは特産品イメージ

11月2日、道の駅で地域産材を活用した木製品贈呈式が行われました。これは農林中央金庫と全国森林組合連合会が連携し、東日本大震災の被災地支援を目的に行っているものです。この日は、同駅に椅子や机などが寄贈され、設置されました。椅子の背もたれには、本町の特産品であるホタテとシイタケがデザインされており、地域の魅力とぬくもりを感じることができます。皆さんも道の駅に立ち寄った際には、利用してみたいかでしょうか。



転覆した船から5人を救助 船越の金濱さんに感謝状贈呈

11月6日に町役場で釜石海上保安部（奥康彦^{やすひこ}部長）から金濱正一^{しょういち}さんに感謝状が贈られました。これは、金濱さんが8月22日に船越湾の弁天島付近で転覆した船から5人を救助したことによるものです。当日は台風の影響で荒天。救助にも危険が伴ったといいます。その時のことを「とにかく助けることに夢中でした。5人全員が無事で本当によかったです」と振り返ります。最後に「海に出る際には、気象情報の把握をしっかりしてほしいですね」と力強く訴えました。

第33回山田少年空手道大会 一進一退の攻防に熱い声援

エイ、ヤーッ！——。町立武徳殿に子どもたちの気合の入った掛け声が響き渡りました。11月15日に行われた少年空手道大会は、青少年の健全育成を目的として毎年開催されているもので、町内外の幼児、小・中学生ら29人が参加。選手らは、形と組手の部において日ごろの鍛錬の成果を披露しました。組手では、多くの試合が互いの闘志がぶつかり合う一進一退の展開となり、観客や仲間の選手から「攻めろ、攻めろ」「回し蹴り！」などと大きな声援が飛び交っていました。



町朗読ボランティア 「声の広報」利用者と交流会

山田町朗読ボランティア（佐々木啓子^{けいこ}代表）が目まぐるしい人々のために「広報やまだ」の内容をカセットテープに録音して届ける「声の広報」。その利用者とボランティアらの交流会が11月16日、中央コミュニティセンターで開催されました。利用者3人とボランティア9人が参加。佐藤信逸町長の講話を聞いた後、お互いにハンドマッサージをしたり、朗読劇を上演したりして交流しました。佐藤町長は復旧・復興事業について説明。視覚障害者が暮らしやすい町づくりについて活発に意見交換を行いました。



町のあたい

今月の題字 柴田 光樹君 (大浦小3年)



山田の幸・味わい祭り メカジキ解体に会場が沸く

10月25日、山田魚市場特設会場において山田の幸・味わい祭りが開催されました。これは、山田の海産物などを町内外の方にひろく味わってもらうため行われたもので、約4000人が来場。会場では海・山の幸の販売、鮮魚つめ放題やいか徳利づくりの体験が行われました。ステージでは、町内園児が元気に演舞を披露。さらに、今回のイベントの目玉である解体ショーでは、巨大なメカジキが目の前でさばかれていく様子に会場は大盛り上がり。解体されたばかりのメカジキは刺身やステーキとして振る舞われ、多くの人が舌鼓を打ちました。



豊間根トンネル貫通祭開催 地域住民の理解・協力に感謝

貫通したばかりのトンネルに人々の声がこだまします——。11月8日豊間根トンネル坑内で貫通祭が開催されました。これは10月16日に同トンネルが貫通したことを祝い、地域住民の方々の理解と協力に感謝するために開催されたもので、約300人が参加。会場では豊間根中学校の生徒による鶏舞と剣舞などの郷土芸能や、お笑い芸人・アンダーエイジによる漫才が披露され、観客らは大いに楽しみました。また、貫通した際にでた小石を入れたお守りの配布も行われ、受け取った人はめったに手にすることのできない贈り物を喜んでいるようでした。

